

2018年9月14日  
公益財団法人イオン環境財団



防災林の再生を目指し、新たな植樹計画をスタート  
**第2期「インドネシア ジャカルタ植樹」を実施**  
「日本インドネシア国交樹立60周年記念事業」

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、9月22日（土）、第2期「インドネシア ジャカルタ植樹」の第1回植樹を実施します。

本植樹は、日本とインドネシアの国交樹立60周年を機にスタートするもので、防災林再生のため、3年計画で30,000本の植樹を行います。

植樹地となるジャカルタ市北部のパンタイインダ カプックの沼地では、開発の影響でマングローブ等から成る防災林の立ち枯れが問題となっています。このため、周辺の住宅地や高速道路を洪水災害から守るとともに、緑あふれる沿岸部を再生すること目的に、本年は、日本とインドネシア両国のボランティア1,000名の皆さまと10,000本のマングローブを植樹します。なお、同植樹地は、2011年から2013年の3年間、両国のボランティアのべ5,100名の皆さまと合計63,000本のマングローブを植樹した隣接地にあたります。

また、本年の植樹は、日本インドネシア国交樹立60周年記念事業実行委員会より、両国のさらなる友好関係の構築と交流を促進する事業として60周年記念事業の認定を受けています。

当財団はこれからも、いのちあふれる美しい自然を次代の子どもたちに引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時： 2018年9月22日（土） 9時00分～10時30分  
場 所： インドネシア共和国 ジャカルタ市北部 パンタイインダ カプック 高速道路脇  
植樹面積： 4,000㎡  
植樹本数： 10,000本  
参加人数： 1,000名  
樹 種： マングローブ  
主 催： ジャカルタ首都特別州、公益財団法人イオン環境財団  
協 力： イオンインドネシア(株)、イオンクレジットサービスインドネシア(株)  
イオンモールインドネシア(株)  
主な参加者： ジャカルタ首都特別州知事 アニス バスウェダン様  
(予定) インドネシア環境・森林省大臣 シティ ヌルバヤ様  
元インドネシア大統領諮問会議 議長 エミル サリム 様  
駐インドネシア日本国大使館 特命全権大使 石井 正文 様  
(公財)イオン環境財団理事 イオン(株)社長 岡田 元也  
イオン(株)取締役会議長 横尾 博  
イオンインドネシア(株)社長 菓子 豊文

以上

## ご参考

【インドネシアにおけるイオンの環境・社会貢献活動について】

### ■公益財団法人イオン環境財団の取り組み

#### 「インドネシアでの植樹活動（第1期ジャカルタ植樹：2011年～2013年）」



当財団は、1990年の設立以来ボランティアの皆さまとともに世界各地で植樹を行っており、本年の隣接地において、2011年より3年間で、のべ5,100人の参加者ととも、63,000本のマングローブを植樹しました。本植樹は、当財団創立20周年を記念して創設した「生物多様性みどり賞（国際賞）」を、エリム サリム博士（元インドネシア大統領諮問会議議長）へ授賞したことがきっかけとなり、実施に至ったものです。

#### 環境教育「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」



環境分野においてグローバルなステージで活躍する人材を育成することを目的に、2012年より10年計画でASEPを開催しています。アジア各国の大学生が集まりそれぞれの国の自然環境や歴史、文化、価値観の違いを学びながら、生物多様性について討議します。第7回となる本年はミャンマーのヤンゴン経済大学を新たに迎え、9カ国（カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、タイ、ベトナム、ミャンマー）9大学72名の大学生が「熱帯雨林からの贈りもの」というテーマのもと、マレーシアクアラルンプール近郊でフィールドワークを行いました。

#### 早稲田大学との連携：Beyond Biodiversity Seminar



国際的な視野で生物多様性の価値を見直し、新たな価値共有のできる教育を行うことを目的に、早稲田大学と提携し「Beyond Biodiversity Seminar（環境セミナー）」を、2016年より開催しています。これまで、ベトナム、カンボジアで開催し、第3回目となる本年は、9月23日（土）に、「SDGs+1 アジアからの提言」をテーマに、インドネシア大学にて200名の大学生とともに実施します。

### ■公益財団法人イオンワンパーセントクラブの取り組み

#### ティーンエイジアンバサダー（高校生交流）」



ティーンエイジアンバサダーは、日本と海外の高校生が互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流事業です。本年は、「日本インドネシア ティーンエイジアンバサダー事業」を実施し、国立筑波大学附属坂戸高校とボゴール市のウムル クロ高校の高校生32名が参加いたしました。1月にインドネシアの高校生が来日し、餅つきや雪体験、ホームステイを通じて日本の歴史・文化を学ぶほか、両国の高校生が国際規格であるグローバルGAP（適正農業規範）基準で運営されているイオン埼玉羽生農場の視察を行いました。また3月には、日本の高校生がインドネシアの高校生のもとを訪ね、伝統舞踊やバティックのろうけつ染の体験等を通じてインドネシアの歴史、文化を学びました。なお本年のインドネシアとの交流は、2002年、2012年、2015年に続く4度目となります。

## アジアユースリーダーズ



アジアユースリーダーズは、異なるバックグラウンドを持つアジア各国の若者が一堂に会し、英語を共通言語として開催国の社会問題をテーマに議論を行い、問題解決力やグローバル感覚、価値観の多様性について理解を深めることを目的に実施しているものです。本年は、ジャカルタで開催し、6カ国（中国、インドネシア、日本、マレーシアタイ、ベトナム）の次代を担う学生たち85名が参加しました。

「食と健康」をテーマに講義や体験学習、グループディスカッションを通じて考察を深め、活動の成果として課題解決策を開催地域へ引き継ぎました。

## イオンスカラシップ



イオンスカラシップは、アジアの大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度です。将来、日本とアジア各国をつなぐ架け橋となってほしいという願いのもと2006年に開始しました。年間を通じた経済的支援のほか、日本で学ぶ奨学生を対象に、研修やボランティア活動の機会を提供し、グローバル人材への成長を目指す学生のサポートを行っています。2018年9月現在、7カ国（カンボジア、中国、インドネシア、日本、タイ、ベトナム、ミャンマー）の35大学5,746名に給付しています。インドネシアにおいては、2012年から支援を始め、インドネシア国内でのべ55名、日本の大学に留学しているインドネシアの学生に対してのべ36名に給付を行っています。